

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	芸術専門課程		声優・演劇科		平成28(2016)年度	-	令和 1(2019)年度	
学科の目的	本学科はその創設から、「声優」「俳優」「タレント」に必要なスキルはまったく同じであると考え、「演劇表現を行う者」つまり【役者】の『基礎力』を高めることを最重要視してきており、演劇表現の実践教育を通して、豊かな情感、筋力・体力、コミュニケーション能力を養い、今後ますます多様化する現場において求められる『対応力』と現代社会に適応するための『人間力』の習得を目指します。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	著作権検定BASIC、ビジネス能力検定B検ジョブパス3級 中退率:5.2%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	510 単位時間	0 単位時間	1,590 単位時間	0 単位時間	2,170 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
160 人	127 人		2 人		2 %	5 %		
就職等の状況	■卒業者数 (C)		75 人					
	■就職希望者数 (D)		75 人					
	■就職者数 (E)		75 人					
	■地元就職者数 (F)		7 人					
	■就職率 (E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		9 %					
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		有					
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/creators/actor/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数					120 単位時間		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間		
	うち必修授業時数					120 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					120 単位時間		
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間		
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数					単位		
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位		
	うち企業等と連携した演習の授業時数					単位		
うち必修授業時数					単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					2 人		
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人		
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人		
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人		
	計					4 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

年度毎にカリキュラムの見直しを行うため、関係分野における企業・団体等へのヒアリングを適宜実施し、実務に関する知識、技術を調査しカリキュラムに反映させている。
また授業科目のシラバスにおいても、科目担当教員、講師と連携企業との間で意見交換を行い、学習成果評価等の検証から、授業内容や評価方法を社会情勢に対応し見直しを行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
植田 真介	文学座 主事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
大久保 皓生	株式会社アーティストコーディネーター 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
小林 敬宜	松竹芸能株式会社 取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
松永 英晃	有限会社スターダス・21Neu 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
植木 隆文	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
長谷川 浩司	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月30日 13:00～14:30

第2回 令和6年03月18日 15:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において、業界が求める人材のイメージの意見交換をしつつ、現在のカリキュラムが業界で求める人材育成に適しているかを確認している。また、業界の動向から指導方法についても検討する場となっている。

具体的には、業界では新人のコミュニケーション低下が進んでいる現状を受けて、実習においてコミュニケーション能力を高めるワークショップや声優・俳優業界へのスキルアップを今後検討課題としている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

出講している現役俳優、または現役声優講師の所属するカンパニー・劇団で使用している舞台の台本や、収録現場で使用しているアフレコ台本、楽譜、音源を用いて、現場に限りなく近い演技指導を実施することが出来ている。

専任教員は、日常的に現場の俳優や声優と接しているため、授業計画や評価方法、学生指導上の問題点、改善案などは常に情報共有している。講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
卒業制作	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	卒業制作作品に出演します。（他学科制作のアニメ・CG・ゲーム・映像・イベントほかを含む）	東宝芸能株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、現場（フィールド）志向の充実した専門教育、揺れ動くポストコロナ時代の社会、芸能界およびライブエンターテインメントの状況を把握するべく、業界で活躍する本校講師との意見交換や関連企業による講義の拝聴、アニメ・ゲームイベント、講習会への参加のほか、毎年4回以上の芸術鑑賞会（観劇実習）を実施する。芸能スキル向上のため、一般社団法人日本演出家協会、オンライン研修、開校講座に参加。

また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本初演ミュージカルの製作	連携企業等：東宝芸能株式会社
期間：	2023年10月26日（木）	対象：声優・演劇科 教職員
内容	映画との違い、舞台上でどのような飛躍が可能になるのかを実証する。また日本初演ミュージカルとして開幕する製作方法に触れる	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	AI(Chat GPT)を活用した業務効率化	連携企業等：クリーク・アンド・リバー社
期間：	2023年9月26日（火）	対象：クリエイターズカレッジ 全教員
内容	・ChatGPT を使ってみよう。業務の効率化とクオリティを向上させる使い方 ・AI の現状とそれに対応した教育	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	アンドリュー・ロイド＝ウェバーの傑作ミュージカル作品の製作	連携企業等：株式会社ホリプロ
期間：	2025年1月	対象：声優・演劇科 教職員
内容	全世界27カ国145都市、1億3千万人以上が観劇している、世界で最も観られているミュージカル作品のバックステージと劇場の機構をプレイヤー目線で共有する	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	生成AIがエンターテインメント業界にもたらす変化	連携企業等:	クリーク・アンド・リバー社
期間:	2024年9月	対象:	クリエイターズカレッジ 全教員
内容	・最新の生成AIトピックス ・生成AIとは？ ・生成AIによる働き方の変化 ・教育・学校関連の生成AI事例を検証し、今後の教育に役立てていく		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してみてもどうでしょうか。
・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験動奨奨を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となく育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てくれば良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらゐの実績が書かれていれば良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思います。
・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもうかが業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまさないようお願いします。
・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学ぶ側に取ってとても有難いことかと思われま。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリッドにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思いますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところ。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
オ丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めにに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 声優・演劇科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキルⅠ	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力を養います。	1・前	15	1	○			○		○		
2	○			ビジネススキルⅡ		1・後	15	1	○			○		○		
3			○	演劇概論Ⅰ	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
4			○	演劇概論Ⅱ		1・後	15	1	○			○		○		
5	○			演技研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・前	60	4	○			○	○	○		
6	○			演技研究Ⅱ		1・後	40	2	○			○	○	○		
7	○			基礎演技Ⅰ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3			○	○		○	○	
8	○			基礎演技Ⅱ		1・後	70	2			○	○		○	○	
9	○			基礎演技Ⅲ		1・前	105	3			○	○		○	○	
10	○			基礎演技Ⅳ		1・後	70	2			○	○		○	○	
11	○			舞踊Ⅰ	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・前	60	2			○	○	○		○	
12	○			舞踊Ⅱ		1・後	40	1			○	○	○		○	
13			○	ダンスⅠ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・前	60	2			○	○			○	
14			○	ダンスⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
15			○	ダンスⅢ		1・前	60	2			○	○			○	
16			○	ダンスⅣ		1・後	40	1			○	○			○	
17			○	アクションⅠ	殺陣・アクションを学ぶための体力作りから基礎技術までを学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
18			○	アクションⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
19	○			ヴォーカルⅠ	様々な種のヴォーカルに取り組み、演技者に必要な音感・リズム感・表現力を養います。	1・前	60	2			○	○			○	
20	○			ヴォーカルⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
21			○	ワークショップⅠ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
22			○	ワークショップⅡ		1・後	40	1			○	○			○	
23			○	ワークショップⅢ		1・前	60	2			○	○			○	
24			○	ワークショップⅣ		1・後	40	1			○	○			○	
25	○			舞台総合実習	1年次の集大成として修了公演を行います。	1・後	120	4			○	○		○	○	
26	○			キャリアデザインⅠ	声優・俳優・タレント業界の知識を学びます。また、進路に関しての情報交換をはじめ、セルフプロデュース、オーディション対策などを行います。	2・前	15	1	○			○		○		
27	○			キャリアデザインⅡ		2・後	15	1	○			○		○		

(芸術専門課程 声優・演劇科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
28			○	作品研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、多くの作品に触れ、様々な角度から研究します。また、映画・テレビ・演劇などの業界人による講演を通じて知識を深めます。	2・前	60	4	○			○		○		
29			○	作品研究Ⅱ		2・後	40	2	○			○		○		
30			○	舞台実習Ⅰ		2・前	105	3			○	○		○	○	
31			○	舞台実習Ⅱ		2・後	70	2			○	○		○	○	
32			○	舞台実習Ⅲ		2・前	105	3			○	○		○	○	
33			○	舞台実習Ⅳ		2・後	70	2			○	○		○	○	
34			○	アフレコⅠ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・前	105	3			○	○		○	○	
35			○	アフレコⅡ		2・後	70	2			○	○		○	○	
36			○	声優演技Ⅰ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・前	105	3			○	○		○	○	
37			○	声優演技Ⅱ		2・後	70	2			○	○		○	○	
38			○	ナレーションⅠ	ナレーションやドラマリーディングなどの原稿を用いて、声の表現力を学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○	
39			○	ナレーションⅡ		2・後	40	1			○	○		○	○	
40			○	アナウンスⅠ	フリートークやインタビュー、原稿読みなど、いかにわかりやすくて的確に内容を伝えていくかを学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
41			○	アナウンスⅡ		2・後	40	1			○	○			○	
42			○	応用演技Ⅰ	演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
43			○	応用演技Ⅱ		2・後	40	1			○	○		○		
44			○	舞踊Ⅲ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
45			○	舞踊Ⅳ		2・後	40	1			○	○			○	
46			○	ダンスⅤ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	
47			○	ダンスⅥ		2・後	40	1			○	○			○	
48			○	ダンスⅦ		2・前	60	2			○	○			○	
49			○	ダンスⅧ		2・後	40	1			○	○			○	
50			○	アクションⅢ	殺陣・アクションを芝居に取り入れた表現技術を学び、さらには立ち回りの演出プランを研究実践します。	2・前	60	2			○	○			○	
51			○	アクションⅣ		2・後	40	1			○	○			○	
52			○	ヴォーカルⅢ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2			○	○			○	
53			○	ヴォーカルⅣ		2・後	40	1			○	○			○	
54			○	ヴォーカルⅤ		2・前	60	2			○	○			○	
55			○	ヴォーカルⅥ		2・後	40	1			○	○			○	

(芸術専門課程 声優・演劇科)													
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
		○	ミュージカル実習Ⅰ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・前	105	3			○	○		○
		○	ミュージカル実習Ⅱ		2・後	70	2			○	○		○
		○	演劇表現演習Ⅰ	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・前	60	2			○	○		○
		○	演劇表現演習Ⅱ		2・後	40	1			○	○		○
		○	企画制作演習Ⅰ	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・前	105	3			○	○		○
		○	企画制作演習Ⅱ		2・後	70	2			○	○		○
		○	シナリオⅠ	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・前	60	4		○		○		○
		○	シナリオⅡ		2・後	40	2		○		○		○
○			卒業制作	卒業制作作品に出演します。(他学科制作のアニメ・CG・ゲーム・映像・イベントほかを含む)	2・後	120	4			○	○		○
		○	卒業研究	個々に研究テーマを設定し、卒業論文にまとめ発表します。	2・後	120	8		○		○		○
		○	インターンシップA	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外での出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・通	240	8			○		○	○
		○	インターンシップB		2・通	120	4			○		○	○
		○	インターンシップC		2・通	60	2			○		○	○
合計				68 科目			4270時間			単位(単位時間)			
							145単位						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目950時間(34単位)および選択科目750時間(21単位)以上取得し、合計1700時間(55単位)以上取得すること。		1学年の学期区分	2 期
履修方法: 1年次は必須800時間、選択科目100時間以上履修すること。 2年次は必須150時間、選択科目650時間以上履修すること。		1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。